

# 全国各地で公設MICE施設の拡張、新設

各都市では今後のMICE需要を予測して施設の新設、拡張が始まっている

- 仙台（仙台国際センターの拡張・3千㎡）
- 高崎（MICE複合施設の新設）
- 東京（東京ビッグサイトの拡張・4万㎡）
- 横浜（パシフィコ横浜の拡張・1万㎡）
- 名古屋（展示施設の新設・国内最大規模の展示場10万㎡）
- 京都（国立京都国際会館の拡張、ロームシアター開館）
- 神戸（神戸国際会議場・展示場の建直し）
- 福岡（福岡国際展示場の拡張・5千㎡）
- 長崎（MICE複合施設の新設）
- 熊本（MICE複合施設の新設）
- 沖縄（MICE複合施設の新設・1万人収容規模）

# 国内の主なMICE施設

都市名	国際会議開催件数 (都市)	主要MICE施設	主要施設国際会議 開催件数(2014)	開業年	会場収容	展示面積	拡張計画等
東京	500件	東京国際フォーラム	53件	2003年	5,000人 (固定席)	5,000㎡	-
		東京ビッグサイト	24件	1996年	1,000人 (固定席)	80,000㎡	4万㎡拡張予定
横浜	191件	パシフィコ横浜	84件	2001年	5,000人 (固定席)	20,000㎡	1万㎡拡張予定
千葉	32件	幕張メッセ	19件	1989年	1,500人 (可動)	72,000㎡	-
大阪	140件	大阪国際会議場	35件	2000年	2,700人 (固定席)	2,600㎡	-
		インテックス大阪	5件	1985年	300人 (可動)	70,000㎡	-
京都	196件	国立京都国際会館	47件	1966年	1,800人 (固定席)	3,000㎡	5千㎡拡張予定
		みやこメッセ	1件	1996年	120人 (可動)	9,650㎡	隣接MICE施設整備
神戸	92件	神戸コンベンションセンター	29件	1981年	700人 (固定席)	14,800㎡	改築予定
		ポートピアホール	-		1,702人 (固定席)		
名古屋	126件	名古屋国際会議場	21件	1990年	3,000人 (固定席)	1,920㎡	修繕
		ポートメッセなごや	-	1973年	500人 (可動)	35,000㎡	10万㎡へ拡張計画
福岡	252件	福岡国際会議場	31件	2003年	3,000人 (固定席)	1,300㎡	-
		マリンメッセ福岡	-	1994年	500名	9,100㎡	5千㎡拡張予定
		福岡国際センター	-	1981年	300人 (可動)	5,000㎡	-
		福岡サンパレス	-	1981年	2,316人 (固定席)	-	-

## 世界のMICE施設のトレンドはオールインワン型

- 日本のMICE施設は単館主義（国際会議場と展示場が別々）  
周辺の地域インフラが遅れた場合、MICE施設のみが  
取り残され、集客率が下がる  
国内では周辺の商業施設のインフラを含めパシフィコ  
横浜の一人勝ち
- 世界のトレンドはMICE複合施設
- MICE施設を中心とした街を形成
- クラスタとして集客し経済効果を楽しむ
- MICE施設運営成功の鍵は周辺のインフラと不測不利の関係

# 近隣アジア諸国のMICE施設との比較

国名	施設名	開業年	展示面積	最大会議 収容人数	会議室数	その他
日本	大阪国際会議場	2000年	2,600㎡	2,800人	25室	
	インテックス大阪	1985年	70,000㎡	300人	12室	
	東京ビッグサイト	1996年	80,000㎡	1,000人	23室	4万㎡拡張予定
	東京国際フォーラム	2003年	5,000㎡	5,000人	33室	周辺インフラ整備
	パシフィコ横浜	1991年	20,000㎡	5,000人	47室	1万㎡拡張、ホル建設
	幕張メッセ	1989年	72,000㎡	9,000人	18室	周辺インフラ整備
韓国	COEX	1979年	36,000㎡	1,800人	48室	第2 COEX建設
	KINTEX	2005年	100,000㎡	1,600人	39室	周辺インフラ整備
	BEXCO	2001年	46,000㎡	4,000人	49室	第2、第3BEXCO建設
台湾	台北世界貿易中心 南港展覽館	2008年	45,000㎡	500人	8室	国際会議場、ホル建設
香港	アジア・ワールド EXPO	2005年	70,000㎡	13,500人	7室	
シンガポール	サンテック・シンガポール	1995年	39,000㎡	12,000人	31室	
	シンガポール EXPO	2000年	100,000㎡	8,000人	4室	
	マリナベイ・サンズ (統合型リゾート)	2010年	32,000㎡	11,000人	217室	

# シンガポールの主要MICE施設

MICE先進都市シンガポールの強さの要因の一つは主要MICE施設がその特性を最大限に活かしてMICEを受け入れる役割分担をしていることにある。

施設名	開業	展示面積	最大規模会議収容	会議室	主なMICE市場
サンテック・シンガポール	1995	24,000m <sup>2</sup>	12,000人	31室	学術会議・政府系会議 IMF,Sibos等
シンガポールEXPO	2001	100,000m <sup>2</sup>	8,000人	4室	大規模展示会 年間700件展示イベント
マリナベイ・サンズ (統合型リゾート)	2010	32,000m <sup>2</sup>	11,000人	217室	企業系MICE 中小規模展示、営業会議 インセンティブ



# IRにおけるMICE機能

- 大阪のIRではなく関西圏のIRという位置付け
- IRにおけるMICE施設は万能ではない
- IRオペレーターへのMICE機能の要望
- IRを中心とした都市づくりの重要性
- 既存MICE施設とIRとの関係  
母都市・大阪及び関西圏